

1 得点分布及び小問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

得点	人数	
	人数	%
100	0	0.0
90～99	19	2.9
80～89	53	8.0
70～79	86	13.0
60～69	90	13.6
50～59	105	15.9
40～49	96	14.5
30～39	110	16.7
20～29	73	11.1
10～19	28	4.2
1～9	0	0.0
0	0	0.0

*合格者の中から、無作為に抽出した660人(12.2%)の結果である。

〈表2〉小問別正答率

大問	小問	正答率
1	1	No. 1 97.9
		No. 2 96.2
		No. 3 82.7
	2	ア 39.7
		イ 66.7
		ウ 8.0
	3	No. 1 86.8
		No. 2 23.0
		No. 3 24.2
		No. 4 47.7
小計		57.3
2	1	① 80.2
		② 61.8
		③ 77.7
		④ 37.3
		⑤ 66.5
	2	50.9
	小計	

大問	小問	正答率	
3	1	イ 89.5	
		オ 87.1	
	2	72.3	
小計		83.0	
4	1	(1) 78.4	
		(2) 61.6	
		(3) 43.6	
	2	(1) 47.3	
		(2) 33.1	
		小計	
5	1	68.2	
	2	27.3	
	3	4.5	
	4	1 15.8	
		2 37.0	
		3 37.6	
		4 28.8	
	5	1 57.0	
		2 50.5	
		3 43.9	
		4 43.0	
	小計		37.6

〈表3〉大問別の正答率の経年比較

大問	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
1 リスニング	71.4	76.4	50.8	53.6	57.3
2 対話文読解	70.8	80.4	59.5	57.6	62.4
3 対話文、文法・理解※	56.0	69.0	59.9	64.2	83.0
4 表現力	51.3	45.2	46.8	40.4	52.8
5 長文読解	43.7	56.9	45.8	37.8	37.6

※平成20年度以降の3の内容については、長文読解、表現力・文法となっている。

2 分析結果の概要

〈表1〉について、30点台と50点台の得点層が、それぞれ約16%となっており、その前後の層である40点台、60点台にはそれぞれ約14%が分布している。昨年度と比較して、90点台は減少し2.9%となっている（昨年度4.1%）が、その次の層である70点台から80点台の層が21.0%と増加している（昨年度15.6%）。

〈表2〉について、「長文読解、表現力・文法」を問う3は、昨年度と比較して正答率が83.0%と大幅に高くなっている（昨年度64.2%）。また、表現力を問う4は52.8%と昨年度と比較して上昇したものの（昨年度40.4%）、「読むこと」の領域に関する5の問題の正答率は37.6%と昨年度同様低い（昨年度37.8%）。

〈表3〉について、5がこの5年間で最も低い正答率となっている。3は、主に「長文読解、表現力・文法」の問題で、この5年間で最も高い正答率となっている。主に「書くこと」の領域の問題である4もこの5年間で最も高い正答率となっている。

3 小問ごとの内容及びねらい

大問	小 問	内容	出題のねらい	出題形式			評価の観点													
				記号 選択	記述 ～ 英語	記述 ～日 本語	関心 意欲 態度	表現 の能 力	理解 の能 力	知識 理解										
1	1	No. 1	聞くこと	身近な話題についての会話文を聞いて、その内容に合う絵を選ぶことができる。	○					●	●									
		No. 2																		
		No. 3																		
	2	ア										短めの英文を聞いて、空欄に聞き取った語句を正確に書くことができる。		○					●	
		イ																		
		ウ																		
3	No. 1	比較的長い文章を聞いて、その内容を理解し、設問に答えることができる。	○						●											
	No. 2																			
	No. 3																			
	No. 4																			
2	1										①	読むこと	正月の伝統料理に関する会話文を読んで、適切に会話を構成し、会話の内容を理解することができる。	○					●	●
											②									
		③																		
		④																		
		⑤																		
2		英語独特の表現を日本語に直すことができる。		○					●											
3	1	読むこと	英文を読み、その内容に合う日本語を選んだり、英文を自然な流れになるように並びかえたりすることができる。	○			●			●										
	2																			
4	1	(1)	書くこと	指示された語句を適切に並べかえて、受動態の文を書くことができる。	○						●									
		(2)		指示された語句を適切に並べかえて、最上級の文を書くことができる。								○				●				
		(3)		指示された語句を適切に並べかえて、分詞を使った文を書くことができる。								○		●		●				
	2	(1)	書くこと	初歩的な英語を用いて、日本語を英語で表現できる。	○				●											
		(2)		短い文章の中で、自分の考えを英語で表現できる。									○		●	●				
5	(1)	読むこと	長文の中で、下線部分が指す内容を読み取ることができる。	○						●										
	(2)		長文の中で、下線部分が指す内容を読み取ることができる。									○				●				
	(3)		本文の内容を理解し、適切な単語を挿入することができる。										○			●				
	(4)		本文の内容を理解し、その要約文の空所に適切な単語を挿入することができる。									○			●	●				
	(5)		本文の内容に対する質問に対して、適切なものを選ぶことができる。									○				●				

4 標準解答及び考察

1 〈標準解答〉

1	No.1	ウ	No.2	エ	No.3	ア		
2	ア	thirteen		イ	Saturday			
	ウ	come	and	see	it			
3	No.1	ウ	No.2	イ	No.3	ウ	No.4	エ

〈ねらい〉

身近な話題についての英文を聞き、内容に合う絵を選んだり、聞き取った語句を書き取ったり、内容に関する質問の答えを選んだりすることを通して、具体的な内容や大切な部分を聞き取る能力をみる。

〈考察〉

- ・ 大問全体の正答率は、57.3%と昨年よりやや高い（昨年度53.6%）。
- ・ 1の対話「自由時間の使い方」、「学校生活について」、「動物についての話題」に対して適切な絵を選択する問題は、正答率の平均が92.3%と高い。日常的な場面設定での短い対話文についての聞き取る力は定着していると考えられる。
- ・ 2の聞き取った語句を書き取るという問題について、イの無解答はほとんどいないが、誤答としてSaturday、Satuaday、saturdayが多くみられる。アの正答率は39.7%とかなり低く、thirtyやfifteenなどの誤答が多く見られた。ウは語と語の連結による音変化を聞き取る力をみる問題であるが、正答率が8.0%とかなり低く、定着していないと考えられる。
- ・ 3のNo.2は聞き取った内容をもとに、計算して数字を選ぶことができるかをみる問題で、正答率は23.0%とかなり低い。聞き取った情報を組み合わせて答えを導き出すことができなかったと考えられる。

〈今後の指導〉

- ・ 日常生活にかかわる基本的な文法事項については、聞いたり話したりするだけでなく、書き取りまでできるように繰り返し指導し、習熟させる。
- ・ 語と語の連結による音変化については、授業中にその聞き取りと読み方に注目させ指導する。特にALTとの授業において発音指導を効果的に行う。
- ・ 具体的な内容や大切な部分を聞き取ることができるよう、聞き取りのための様々な場面や機会を設定して繰り返し演習を行う。

2 〈標準解答〉

1	①	ウ	②	オ	③	カ	④	イ	⑤	ア
2	(例) おやすいご用です。 (私があなたのお手伝いをするのは簡単です。)									

〈ねらい〉

日本の正月料理「おせち」の話題についての会話文を読み、話の流れに合っている英文を選ぶことを通して、話の内容を理解し会話を構成する力をみる。

〈考察〉

- ・ 大問全体の正答率は、62.4%と昨年よりやや高い（昨年度57.6%）。
- ・ 正答率は、①が80.2%、③は77.7%と正答率が高いが、②のように空欄の次にくる語との連動と、そのあとにくる文の流れを理解して選択する問題となると正答率は下がる傾向にある。
- ・ ④の正答率は37.3%とかなり低く、Butが逆接ではなく並列的に使われていたためと考えられる。

〈今後の指導〉

- ・ 会話でよく使われる表現については、実際に使う場面を設定して練習をさせる。
- ・ 文章を読む際には文脈に注意させ、特に会話文においては話の流れを理解しながら読む習慣をつけさせる。
- ・ 日本の伝統文化を外国人に伝えるという場面は、まず日本人が日本を知っているという意味でも意義深いことである。調べ学習やスピーチなどを通じて日本文化について表現する機会を増やす。

3 〈標準解答〉

1	イ ; オ
2	①(イ) → ②(ウ) → ③(ア)

〈ねらい〉

英文を読み、その内容に合うような日本語の文を選んだり、英文が自然な流れになるように段落を適切な順番に並べかえたりすることを通して、その内容を読み取る能力をみる。

〈考察〉

- ・ 大問全体の正答率は、83.0%と昨年よりかなり高い（昨年度64.2%）。
- ・ 1の内容を読み取る問題の正答率は、イ89.5%とオ87.1%とかなり高い。
- ・ 2の段落を適切に並べる問題は、正答率が72.3%と高く、短い文の文脈を読み取る力は定着していると思われる。

〈今後の指導〉

- ・ 授業ではClassroom Englishを使い、生徒がsmall talkやspeechなどを実践することで表現に習熟させる。
- ・ 内容を文脈から理解できるように、段落ごとに内容を要約させるなどの活動を通じて段落構成に慣れさせる。
- ・ 時事問題については、日頃から適宜、情報提供を行い、興味関心の幅を広げる工夫をする。

4 〈標準解答〉

1	(1)	It (is sung by a famous singer) .
	(2)	He (is the tallest boy in) this class.
	(3)	The girl (playing table tennis with a teacher is) my sister.
2	(1)	(例) She is popular among many students.
	(2)	(例) I use blue and I want to show the beautiful sea and the clear sky. (15語)

〈ねらい〉

場面に応じて、指示された語句を並べかえて適切な英文を作ったり、与えられた情報をもとに、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書いたりすることを通して、表現する能力をみる。

〈考察〉

- ・ 大問全体の正答率は、52.8%と昨年より高い（昨年度40.4%）。
- ・ 1の(1)は、78.4%の正答率である。受け身の基本的な文法事項については理解している生徒が多いが、sungを過去分詞として理解していないため、by sungという誤答が多かった。
- ・ 1の(2)は、61.6%の正答率である。前置詞のinを置く位置で誤答が多かった。
- ・ 1の(3)は、43.6%の正答率である。The girlの後にplayingを書いた生徒は、ほぼ正答しているが、The girlの後にisを書いた生徒は、修飾関係の理解不足と思われる。

- ・ 2の(1)はpopularの綴り間違い、amongという前置詞をinなどにする誤答が多かった。
- ・ 2の(2)は15語以上で書く表現力を問う問題であるが、無回答が少ないことから、一般的には与えられた条件にしたがって積極的に書こうとする意欲が感じられる。ただし、正答率が33.1%であることから、読み手に正しく伝わるように書く力はまだ定着していないと思われる。

〈今後の指導〉

- ・ 言語材料の基礎的・基本的事項については、繰り返しの指導によって定着を図る。
- ・ 文型や文法事項を意識して話したり・書いたりする練習を繰り返し行うことで、定着を図る。
- ・ 具体的な場面や状況の中で話題を設定して、考えや意見をまとめてから英語で書く練習をさせるなど、自分の意向が読み手に対して正しく伝わるように、まとまりのある内容の文章を書かせる。

5 〈標準解答〉

1	今、英語を使っているから。(例)							
2	---(例) 人前で原稿を読むのではなく、人々に話しかけるようなスピーチの仕方---							
3	make							
4	1	(例) likes	2	life				
	3	peace	4	friends				
5	(1)	エ	(2)	ウ	(3)	イ	(4)	ア

〈ねらい〉

比較的長い英語の文章を読み、英文の内容を日本語で説明したり、要約文を完成したり、内容に関する質問の答えを選んだりすることなどを通して、文章の概要や要点を読み取る能力をみる。

〈考察〉

- ・ 大問全体の正答率は、37.6%で、昨年度と同様に低い。(昨年度37.8%)。
- ・ 1の正答率は、68.2%と高い。誤答としては、「英語はおもしろいから」「大統領にEメールが書けるから」などがあり、客観的に内容をとらえられなかったと考えられる。
- ・ 2の正答率は、27.3%とかなり低い。代名詞が指す内容を抜き出す問題であるが、段落が変わったばかりの第3段落の1、2行目を確実に読み取っていないため誤答が多かったと思われる。
- ・ 3の正答率は、4.5%とかなり低い。誤答としては動詞のchange、前置詞のoverやinなどを入れているものが多かった。本文中の(3)の後のthe world a better placeの語句の並びに意識が及ばなかったことやmakeの用法に気付かなかったと考えられる。
- ・ 4の全ての問題の正答率が4割に達していないことから、全体の内容を深く理解し、要約する力が不足していると思われる。また、特に1や4が正答率が低い(それぞれ15.8%、28.8%)。1には、isやwasを入れている誤答が多く、文章の流れから適切な単語が浮かばなかった可能性がある。4は、makeとfriendsの間にmanyがあったためmake friendsという表現が浮かばなかったと考えられる。そのため、people、thingsやproblemsなどの誤答が多かった。
- ・ 5の(3)と(4)の正答率は、それぞれ43.9%、43.0%と低い。(3)は、該当部分の内容を深く読み取れなかったため、設問のbecome more interestedというキーワードから該当の段落へ移行できていないことが誤答の原因の1つと考えられる。(4)は、結論部分についての問いであるが、書き手の感情を客観的にとらえていないためウを選択しているものが多かったと思われる。

〈今後の指導〉

- ・ 語彙力・文法力の習得を確実にしながら、ある程度の長さの文章を、設定した時間内に正確に読み取らせる。
- ・ 段落全体の概要を読み取る、本文中の表現について具体的に日本語で説明する、ある表現に込められた登場人物の心情を読み取るなど、授業の中で適切に指導をする。
- ・ 限られた時間の中ですばやく英文に目を通したり、意識的に特定の情報を探しながら読んだりするなど、目的に合ったさまざまな読み方をさせる。